

「祝瓶山」

2019 年 9 月 17 日(火)

山名 祝瓶山

参加者 栗崎(透)、栗崎(容) 計 2 名

朝日連峰の主稜線から、カッコ良く尖った祝瓶山を眺める度に、いつも行ってみたいと思っていました。何度か計画したものの、悪天候や体調不良(長井在住の友人と前夜飲みすぎて二日酔い)に阻まれていましたがやっと実現しました。

実は、前日の 16 日に雁戸山に登ったのですが、歩き始めて 1 時間ほどで雨がジャンジャン降りだし、あっけない敗退となりました。そんなわけでこの日は、前泊した「道の駅 川のみなと長井」の駐車場からの出発となりました。今回は、祝瓶山荘から桑住平を経て山頂、下山は赤鼻を経て赤鼻尾根を下る周回コースです。

4:50 道の駅・川のみなと長井を出発

6:00 祝瓶山荘の駐車場に到着。(到着後朝食と準備)

6:48 登山開始

6:56 野川に架かる吊橋を渡る

7:43 桑住平分岐

10:25 祝瓶山山頂到着(ゆっくり昼食)

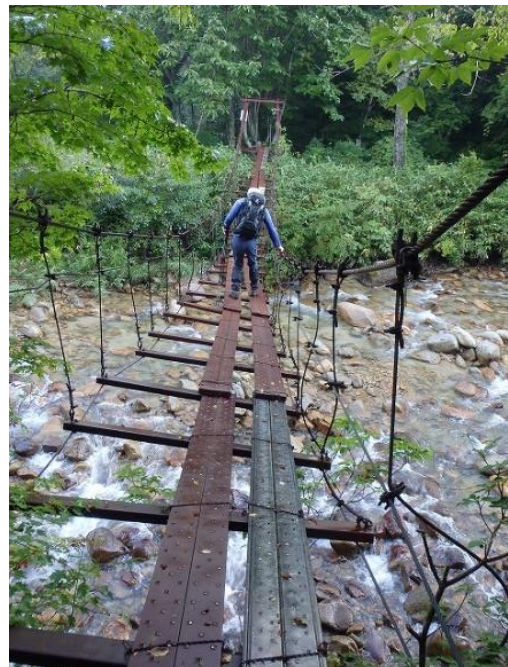
11:28 下山開始

13:02 赤鼻を通過

13:54 赤鼻沢と交差(5 分ほど沢水浴び)

14:53 野川に架かる吊橋を渡る

15:05 祝瓶山荘の駐車場に帰着



長井の町中を過ぎて、長井ダム、木地山ダムを眺めながら車を進めます。

途中までガスに包まれていましたがやがて青空が広がり、好天が期待できそう。



ダムを離れた後の山荘までの林道は砂利道となり、道幅も狭くなります。

最後の 10 分間くらいは、なかなか手ごわい悪路。車高の高い 4WD 車がお勧めです。

祝瓶山荘に到着。「祝瓶山荘」の他にも「友愛山荘」「(特に表示なし)」の 2 棟の建屋がありました。

トイレもあり、車は 10-15 台くらい駐車できそうです。

すでに釣り人と登山者の車が 2 台。ここで朝食をとってから出発。



平らな林道を進むとほどなく吊橋（角櫓橋）を渡ります。（この橋の歩み板、冬季は撤去され、来春歩み板が再設置されるまで長井市側から祝瓶山に登ることができなくなるそうです。ちなみに令和 1 年は 11 月 9 日に撤去とのこと）なだらかに進む足元にはシダ、周りはブナとナラの林。たまり水の中に数匹のサンショウウオの姿も見られました。時折木々の間から祝瓶山らしき山姿がチラチラしワクワクするも、山頂辺りにガスがからんで全貌は見えません。そして桑住平分岐の道標。これを左折してほどなくカクナラ

沢とヌルミ沢を渡渉します。この後も、新緑のような気持ちのいい背の高いブナの森歩き。先ほどまで木々の間に見えていた祝瓶山の姿が少しずつ大きくなってきます。

林を歩き森を抜けると展望が開け、低木と岩のミックスの、周りの山々が見渡せる道になり、下方には出発地点の祝瓶山荘の 3 棟もはっきり見る事ができました。

どんどん近づく祝瓶山と、急峻でダイナミックなコカクナラサワ源流帯を交互に眺めながらの急登。

笹をつかんで登ります。果たしてここに笹がなかったら登って行けるのだろうか?と思うほど、笹を頼

っての急な登りが続き、その果てに祝瓶山山頂が現れました。山と高原地図の案内に「逆コースは急斜面の下りになるので敬遠したい」というのも頷けます。

朝日連峰の主稜線からいつもこの祝瓶山が眺められたということは、正にその逆も真なりで、この山頂からは朝日連峰の峰々を望むことができました。（ただし、ちょうどその峰々の山頂辺りに雲が絡んでいて全貌…とはいかなかったことがザンネン!）



ここでゆっくり昼食を摂り、山座同定に時間を費やしました。下山は赤鼻を経由し赤鼻尾根を下るルート。まずは北東に向かうこの道は、しばらくの間正面に朝日連峰縦走路の山々を眺めながらの下り道。そして、赤鼻尾根から見る祝瓶山の姿は、陽の向きも手伝って深い緑のどっしりとしたカッコイイものでした。この後は展望を離れ、明るいブナの森を下り、途中アカハナ沢の沢水で顔を洗ったり腕を濡らしたりしてクールダウン。桑住平からは往路と同じ道を歩き、祝瓶山荘に帰着。

帰り道、「川西町浴浴センター まどか」で汗を流して帰路につきました。



(文責 栗崎 容子)

下の廊下（旧日電歩道、水平歩道）

2019年10月6日（日）・7日（月） 大和田外15名

平成28年登山教室用に企画され、天候等により3年間延期だった「下の廊下」を遂に実施。

前日5日に借上げバスで出発、北関東道経由で大町市側から黒部ダム「ロッジくろよん」へ。ロッジに10人、テント場に6人と分かれ前泊。ロッジはトイレが水洗式、風呂が男女別の大浴場。泊まったのは押入れの付いた畳和室。夕食は食堂で煮物、焼き魚、フライなど。全体に民宿風。朝食は弁当を依頼。

翌6日、ロッジ泊組を先頭にテント泊組が続く編成で出発。早朝はダムのレストハウスが開いておらず、トンネル内バス停近くのトイレに重宝した。バス停前を通過してダム下まで降り、下の廊下の山行スタート。天気は曇りで、見上げた立山上部などは紅葉が進んでいたが、黒部ダム周辺は、まだまだ緑。

内蔵助分岐の少し手前で休憩、朝食。榛ノ木平の前後で小雨のために雨衣、ザックカバーを装着。道がへつりになると、対岸には滝、谷底には雪の塊。雪渓はなくなっていたので、アイゼン装着なしで進行。難所のハシゴを昇り降りの後、再びへつりを歩く。雨がやみ、白竜峡を過ぎ、十字峡で吊橋を渡る。半月峡を過ぎS字峡に至ると対岸に黒部第四発電所の送電口が見える。長い吊橋を渡り、砂利道を行くと仙人ダム。堤体を渡り、熱気のこもるトンネルを抜け、関電宿舎前を過ぎると、道は急登になる。登りきると少しの水平の後、阿曾原温泉へ下る。

宿泊する阿曾原温泉小屋は、組立分解できる仮設プレハブ。まさに昔の工事現場事務所の趣き。トイレは入口と廊下突当りの2か所で、いずれも水洗式。風呂は少し下ったテント場をさらに下ったところにある。四角いコンクリート浴槽は、釣り堀池か養魚池のようで、脱衣所などはない、まったくの露天。部屋は大部屋で布団2枚で3人寝る勘定の混み具合。夕食は定番おかわり自由カレーライス。朝食は手持ちの食料が十分なために注文しなかったが、パンに野菜ジュースだったらいい。

翌朝7日はヘッドライトを点けて出発。天候は曇り。小屋から下り、橋を渡って樹林を急登後、水平歩道へ。

急流がはるか下を流れるへつりを慎重に進むが、手すりのハリガネ、番線を頼りきってはいけない。保守工事が途中で、固定している杭が抜けそうな場所、ハリガネの端が結ばれていない場所が少なからずあった。また、天井の低いへつりが続くほか、素掘りトンネルも通るので、ヘルメットは落石からの防護以上に必要だった。栈道、ハシゴ、トンネルなどの難所もクリアし、目標の送電線鉄塔に到着すると、水平歩道は終了。樺平駅まで急坂、階段を下ると樺平駅。トロッコ電車で宇奈月駅まで移動後、バスに移乗し、宇奈月ダム湖畔の温泉で入浴、北陸道経由で帰路に着く。

(文責：太)

コースタイム

10/6(日)

5:00 ロッジくろよん→6:00 黒部ダム下流橋→7:30 内蔵助分岐→10:30 白竜峡→11:30 十字峡→14:00 千人ダム→15:30 阿曽原温泉

10/7(月)

4:00 阿曽原温泉→10:00 樺平



山行報告 大黒山 783.6m

2019年11月15日 大黒山、雨降山、芝山

栗崎透・容子、志尾崎、西、山形、根本、秋葉信夫

大黒山 県道
20号（いわ
き上三坂・小
野線）馬場平
を過ぎ、県道
135号線を



古殿町方面向かい、右側の大黒山林道へ入る。ゲートのある分岐を入る。傍らには猪供養碑が立っている。更に、右の林道を入ると除染廃棄物の仮置き場が出現した。

登山道はないので適当な所から藪を漕ぐと四等三角点の頂上に着く。雑木林の気持ちのいい所だが頂上は仮払われ風力発電の風況調査塔が立っていた。

登山口→頂上 40分。



雨降山（770.9m 三等三角点）「アメフリヤマ」ではなく、「テンキチョウ」。天気の吉兆を占った山なのでこの名が付いたという説もある。難しい呼び名の横綱格である。

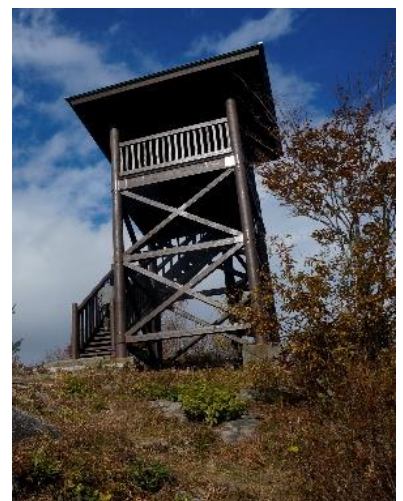
雨降山に向かう、頂上手前の馬頭観音は先

日の台風で倒れていたのので立ててやる。何年も通っているがこの石碑が倒れていたのは初めてのこと、台風の凄まじさが伺われた。

雨降山は清々しい感じのする気持ちのいいところだと感じる。何度来てもまた来てみたいと思うのは私だけでないようだ。

登山口→馬頭観音 25分→頂上 5分

芝山（819m 二等三角点）頂上付近まで車で行けてしまうので山登りの魅力にはかけるが、その広々とした草原から見える展望は素晴らしいものがある。展望台も改修され、条件に恵まれれば富士山も望めるという。



しかし大黒山風力発電計画あり、芝山～大黒山～犬仏山にかけて 17 機の風車が立つことになる。隣接する馬場山風力発電は 10～18 機、遠野風力発電では 27 機が計画されている。

ここからの水は好間川に流れ込む。景観もさることながら、先日の台風 19 号のような雨が降れば、大災害になってしまうのではないか。

「キノコとまさ」で昼食をし、帰路につく。



塩見山

雨降山

大黒山

(芝山より)

2019 年 11 月 15 日 大黒山、犬仏山、雨降山

栗崎透、志尾崎、秋葉、下山田、馬場、芳賀、吉田睦、柏村夫妻



大黒山 2 週連続になるが、今回は別のルートから登る。県道 20 号（いわき上三坂・小野線）を雨降山林道入口を過ぎ、反対側に立派な馬場平広域林道に入る。大黒山林道入口の広場に車を止める。

林道を少し上ると遊歩道の朽ちかかった階段があるのでそこから取り付く。かつては遊歩道として整備されていたのであろう、松、杉、雑木の混合林の中の広々とした路を進む。途中から尾根に取りつき藪を漕ぎ行くと稜線に出る。ものすごい風で寒い、早々に退散する。

犬仏山（三等三角点
767.4m）

馬場平林道を進み古殿側から犬仏山登山口に向かう。頂上には電波塔があるので広い車道が入っているが。ゲートがあり、歩いて行く。三等三角点の頂上は林に囲まれ展望は得られない。陽だまりを選んで、恒例の付近のデザートタイムを楽しむ。

雨降山 まだ登ったことのない人もおり、先週歩いた人もまた行きたいと希望なので
今回も脚を伸ばす。先週同様「キノコとまさ」で昼食をし、帰路につく。

（文責：秋葉）



